

# 行政自治会だより

第13号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 五月女 光男

## 市民総ぐるみ清掃が行われました



第4地区



下山一丁目自治会



静町自治会



駒羽根行政区



積廻行政区



駒羽根住宅団地行政区



三和北中学校



上片田宮前行政区子ども会

5月17日(日)、爽やかな青空のもと、市民総ぐるみ清掃活動が行われました。この清掃活動は、市民と行政が一体となって、市内の美化活動に取り組み、住みよい街づくりをテーマに、古河市内の20地区行政自治会（225自治会及び行政区）により、年2回（春・秋、古河地区は他に2回）行われている清掃活動です。今回の清掃には、地区の子ども会・中学校からお年寄りまでの市民が総出で参加し、道

路敷きの清掃、雑草の除去、コサ刈り、空き缶・空き瓶・その他路上に散乱しているゴミの回収、排水溝柵・側溝内（国・県道及び蓋のある側溝を除く）の清掃、花壇の植栽等を各地区の計画で実施し、ともに汗を流しておりました。古河市が見違えるほど綺麗になったことと推察します。このような活動により、街の美化が保たれております。

（広報委員 梅津信男）

## 茨城県自治会連合会の情報交換会が開催されました



講演する鷲尾政市会長（パネルは土井利勝の肖像画）

1月22日に古河市を開催地として、地域交流センター「はなももプラザ」において、県内の自治会長145名の参加のもと開催されました。

今回の情報交換会では、講演と事例発表を合わせた形で、元古河歴史博物館館長で、現三神町自治会長の鷲尾政市市長に「古河の歴史とまちづくり」と題して講演いただきました。

## 自治会長・行政区長委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

4月10日、とねミドリ館において、今年度選任された自治会長・行政区長と正副地区長の委嘱状交付式が行われ、市長から委嘱状が手渡されました。

続いて在職4年以上で退任された自治会長・行政区長に感謝状が贈呈されました。受賞者9名を代表し、駒込行政区の関義夫氏があいさつを述べられました。長い間、ありがとうございました。

平成27年度感謝状受彰者			
地区	自治会・行政区名	氏名	在職年数
第1	東杉並町	淡路川 保 夫	14年
第2	七軒町	青 木 實	8年
第1	厩町	池 澤 角 次	7年11カ月
第2	新原	山 田 克 彦	7年9カ月
第20	古屋・松山	塚 原 鐵 司	6年
第20	下尾崎一	多々羅 絡	5年
第14	久能	鈴 木 勲	4年
第16	駒込	関 義 夫	4年
第20	新立	蒔 田 澄 雄	4年

（敬称略 在職年数順）



市長から感謝状が贈呈されました。

## 正副地区長会議報告 役員が決まりました！

4月10日に第1回正副地区長会議がとねミドリ館で行われ、行政自治会の新役員が決定しました。

第2回正副地区長会議は5月20日に総和庁舎で開催され、新年度の事業計画や予算について協議し、承認されました。

役員名簿及び正副地区長名簿は、下記のとおりです。

### 役員名簿

役職名	氏名	地区
会長	五月女 光 男	第13
副会長	鈴 木 昇	第 1
副会長	湯 本 豊	第19
理事	伊 藤 利 彦	第 5
理事	遠 藤 英 二	第 9
理事	那 須 和 弥	第15
会計	仲 山 初 男	第12
監事	横 山 泰 男	第 3
監事	染 野 則 夫	第20

### 正副地区長名簿

地区名	地 区 長	副 地 区 長
第1	鈴 木 昇（長谷町）	小 堀 英 男（桜町）
第2	綿 引 正 衛（原）	齋 藤 満（鍛冶町）
第3	横 山 泰 男（下山一丁目）	針 谷 勇（旭）
第4	生 方 隆 雄（中田一丁目）	蜂 須 誠 司（中田町）
第5	伊 藤 利 彦（松原町）	針 谷 征四郎（裏新町）
第6	鈴 木 國 雄（静町）	浦 井 章（常盤台）
第7	熊 木 津佐雄（鴻巣一丁目）	青 柳 寛（光陽台）
第8	中 村 和 彦（新町）	関 口 彰 三（関戸）
第9	遠 藤 英 二（東牛谷）	久 松 明 夫（東泉町）
第10	印 出 久 男（上辺見）	青 木 善 和（中辺見）
第11	岡 安 榮（下辺見）	樫 田 晃（上辺見南町）
第12	仲 山 初 男（駒羽根住宅団地）	岩 上 英 夫（駒羽根）
第13	五月女 光 男（内水海）	因 泥 辰 夫（前林）
第14	栗 原 英 夫（柳橋）	佐 藤 義 徳（久能せせらぎ）
第15	那 須 和 弥（諸川西部）	鈴 木 榮 治（東諸川）
第16	梅 津 信 男（上片田宮前）	宮 本 光（上根）
第17	関 根 正 一（大和田下）	白 澤 一 夫（新和田）
第18	吉 原 正 雄（仁連上町五）	竹 村 清 一（仁連上町三）
第19	湯 本 豊（小立野第二）	小 林 長 一 郎（清水）
第20	染 野 則 夫（下内）	平 間 基 始 男（下尾崎二）



## 地区紹介（第11回） ～第11地区～

第11地区は、下辺見行政区、大堤行政区、みずきの街行政区、上辺見南町行政区の4つの行政区で構成されており、現在1,163世帯が加入しています。11地区としての年間行事活動は、毎年9月に行われる功労感謝の会があり、これまで参加者は、ただ催し物を観たり聞いたりするだけの受け身のものでしたが、参加者からの声もあり、一部を功労者自身が得意なものを披露する、積極的参加型に変えたところ、大変な盛り上がりで、終始和やか雰囲気の中で親睦を深めています。

また、コミュニティ（<sup>みち</sup>徑しるべ）活動として、年2回の防犯パトロールと、下辺見小学校の生徒を対象に、情操教育の一助として、毎年田植えと稲刈りの体験教室を実施し、子供たちとの絆を深めています。



第11地区 功労感謝の会

以下各行政区を紹介致します。

### ～下辺見行政区～

下辺見行政区は、国道354号線北側の市街化区域と、南側の市街化調整区域に、331世帯が混住しています。以前は、行政区内で農業、酪農等が盛んでしたが、ここ数年減少化傾向です。一方、市街化区域の中で、仲坪地区での店舗開発、住宅化等市街化が顕著であり、年々世帯数が増加の傾向で、現在は下辺見行政区全体の過半数を占めています。

また、当行政区には、平安時代末期に源義経と固い絆で結ばれていた、静御前が思案に暮れたと語り継がれる、向堀川に架かる橋「思案橋」があり、橋の北側には静御前の銅像が建立されています。そしてその伝説を裏付ける様に「思案橋町内会」が存在しております。

### ～大堤行政区～

大堤行政区は古河地区と接している地域です。古河駅にも近く、近年大型店舗の出店もあり、ここ数年で世帯数が増え、現在320戸になっています。市のスポーツ事業に積極的に参加し、その後の懇親会で和やかに親しみ親睦を深めています。第11地区のコミュ

ニティ活動も再開され地域の和を大切にしています。

又、大堤にある鮭延寺には江戸時代前期に活躍し、後の勝海舟が「儒服を着た英雄」と述べた反骨の儒学者、熊沢番山の墓があります。

### ～みずきの街行政区～

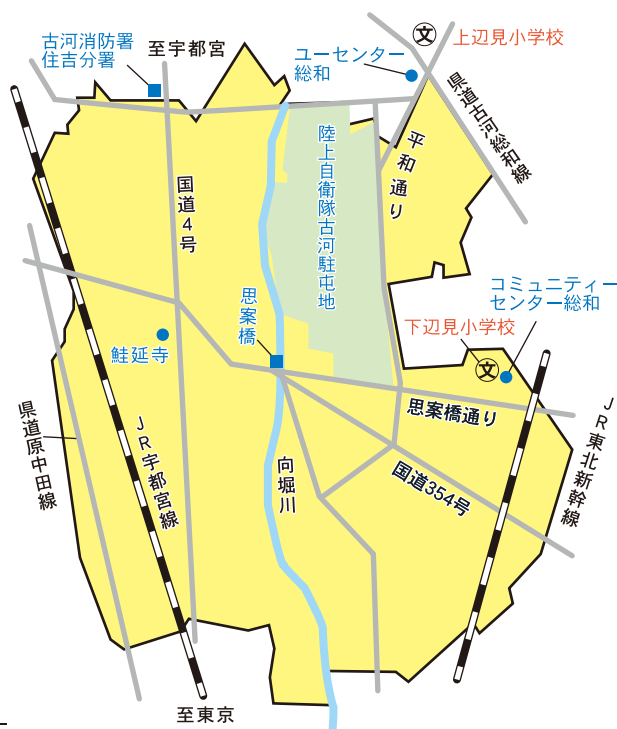
昭和58年～60年に、国道4号線沿いの大堤の地に、戸数92戸の住宅が造成されて花みずきの樹が植えられ、みずきの街と名づけられ、87世帯が暮らす、みずきの街行政区が誕生しました。首都圏方面からの入居者も多く、住民の親交を深める為に、年間行事として4月にいも煮会、6月にバスハイク、9月にボーリング大会、12月に餅つき大会、又、老人会（ほがらか会）主催で10月そば打ち、2月に和菓子づくり等のコミュニティ活動を行い、絆を固め、よりよい街づくり、地域づくりを推進しております。

### ～上辺見南町行政区～

上辺見南町行政区は、陸上自衛隊古河駐屯地と県道古河総和線に挟まれた地域にある行政区です。行政区内は、ほぼ住宅地となっており、以前は所々に見られた田んぼや畑も、年々少なくなっている様に思います。行政区内は6つの町内会があり、世帯数は約425世帯ですので古河市の行政区の中では比較的大きな行政区だと思えます。御多分に漏れず当行政区内でも高齢化が進んでおり、年々色々な行事ごとが難しい状況となっております。

以上で第11地区の紹介と致します。

（第11地区 地区長 岡安榮）



第11地区 区域

## 享保期の飯沼新田開発

“稲穂こがねに 波うつ頃は√ 米の飯沼見せたいものよ√ ♪～”と三和音頭で歌われた広大な美田は、三和地区のほぼ中央を縦断する飯沼新田のことです。享保年間（1716-1736）、江戸幕府の新田開発事業によって完成しました。干拓前の飯沼は、まさに広大な湖沼であり、周辺の村人にとって重要な漁猟の場でしたが、水田の少ないこの地域では、早くから水田化しようという動きがありました。

何度かの計画・開発願いを経て、米将軍と称せられた8代将軍徳川吉宗の政策で実現しましたが、この大規模な新田開発で誕生した31の新田村のひとつに、長左衛門新田があります。



▲飯沼新田絵図  
(仁連鈴木家文書)

## 長左衛門新田と福田家

長左衛門新田の長左衛門とは、所有者の名前、福田長左衛門に由来します。

享保10年（1725）4月、下野国都賀郡間中村（現：栃木県小山市間中）の福田長左衛門政賢は、仁連町名主鈴木善右衛門より新田予定地60町歩を250両で買い取ります。仁連村では名主1人が、開発に参加、それにかかる諸経費もすべて名主個人で負担していましたが、福田長左衛門は新田開発の諸経費を肩代わりする事によって入手したのです。

さらに、長左衛門はこれとは別に恩名村が受け取る予定の新田の一部、33町歩も代金123両3分で買い取っています。

この両方の新田93町歩によって猿島郡長左衛門新田（現：古河市長左衛門新田）が誕生しま

した。いま、わざわざ“猿島郡”と断ったのは、実はちょっと後に、少し離れた場所にもう一つの長左衛門新田が成立するからです。

## 渡呂賦原開発ともう一つの長左衛門新田

三和地域の北東部から隣の八千代町にかけて渡呂賦原という湿地帯がありましたが、やはり飯沼新田開発にともなって開発されました。ここでも、福田長左衛門は新田地を入手、一人請となり長左衛門新田をつくりました。この長左衛門新田は、結城郡にあることから結城郡の長左衛門新田と称されました。現在の古河市間中橋の一部にあたります。

村名が同じ長左衛門新田なので紛らわしいですが、猿島郡と結城郡にそれぞれ別の長左衛門新田が存在していたのは興味深いですね。

なお、飯沼新田開発では、開発が村請ではなく、名主などの個人請けの新田には、長左衛門新田、勘助新田、孫兵衛新田、平八新田、伊左衛門新田、庄右衛門新田、五郎兵衛新田、佐平太新田などのようにその名前がつけられました。

(三和資料館学芸員 白石謙次)



## 編集後記

新しい古河市が誕生して10年（平成17年9月合併）。10周年記念行事として、行政自治会第1地区から第20地区参加の大運動会が予定されております。全地区一堂に会しての大運動会は初めてのことで、親睦を深めるには大変有意義なことと思います。

会員皆様のご参加を楽しみにお待ちしております。

(広報委員長 伊藤利彦)

## 行政自治会広報委員会

委員長

伊藤利彦

委員

横山泰男 生方隆雄 鈴木國雄

中村和彦 荻谷武士 落合芳郎

梅津信男 荒川篤志 黒木ヒサ子